

伊予市図書館・文化ホール等 管理運営事業 第2回市民フォーラム

「わくわく!どきどき!が生まれる場所」を開催しました!!



武智市長



講師(右)
NPO 法人紙のまち図書館
理事長 森川 啓子 氏

四国中央市図書館指定管理者
NPO 法人紙のまち図書館理事長
「暮らしに役立つ図書館・郷土
資料館」を目指し、地域の文化
共創の拠点として活動している。

平成27年度から郷土資料館
(かわのえ高原ふるさと館・
しぐれ館)が加わり、第2期
指定管理がはじまっている。

特定非営利活動法人 NPO 法人紙のまち図書館の取組み



3月23日、ウエルピア伊予で伊予市図書館・文化ホール等管理運営事業 第2回市民フォーラムを実施しました。午後6時半からの開始にも関わらず、当日は約50名の方にお集まりいただきました。

まずは武智市長より伊予市が進めている計画(都市再生整備計画等)の報告をし、今回建設する文化交流施設の位置付けについてご説明をいたしました。また平成28年度より教育監視監のポストを設け、図書館・文化ホールの整備推進を統括することや、平成30年度の開館に向けて当面は市直営での管理を念頭におくこと、料金については受益者負担に基づいて使用者負担をお願いする方針であることも同時にご報告いたしました。

続いて講師であるNPO法人紙のまち図書館理事長 森川啓子氏よりお話をいただきました。NPO法人紙のまち図書館は、四国中央市の4館の図書館において指定管理を受けて市民自らが運営している組織です。NPO法人の立ち上げ時のことから幅広い事業や取り組み、今後めざしていく方向など興味深いお話があり、講演終了後の質疑応答でも活発な意見交換がありました。四国中央市の図書館では休館日の見直しによる開館日数の増加、イベントの充実、情報発信などにより暮らしに役立つ図書館をめざして活動が行われています。またボランティア活動も積極的に行われており、読み聞かせや館内の装飾、草むしりなど、多くの方が自主的に図書館を支援しているというお話でした。「図書館は市民の財産」という森川氏の言葉に、共感する声も挙がっていました。

平成28年度に入り、平成30年の開館予定まであと2年、引き続きよりよい施設をつくれるように検討を進めてまいります。